

1 米国人社員の質問

とある天災があったときの話である。天災が発生した1週間後によく全社員の安全が確認され、仮の本社に集合したときに、ジョン(仮名)という米国人社員に尋ねられた。

「よしかさん、『無事』というのは『元気』と同じ意味なのか？」

彼の生死が明らかでなかったために、久しぶりに会った同僚たちから、「ジョン、無事だったんだね！」と次々に話しかけられ、「無事」という言葉をはじめて聞いたらしい。ジョンは日本に来て10年、日本語が堪能な社員だったが、10年の間に「無事」という言葉を聞いたことがなかったということだった。確かに、日常生活で「無事」という言葉を使うことはあまりなく、「無事でない(かもしれない)」という事態が発生してはじめて、「無事」という言葉というか概念が発生するのだな、とそのとき感じた。

2 「風通しがよい組織」とは？

この経験を思い出したのが、現在勤める会社に転職してきて、「風通しがよい」という言葉を聞いたときである。それまでの人生で、「風通しがよい組織」という言葉を聞いたことが一度もなかったので、「もっと風通しをよくしなければ」という話が出てくるたびに、「それは具体的にはどういう意味ですか？」と確認を試みた。

数回の確認の結果、「風通しがよい」とは、①地位や年齢にかかわらず自分の意見を述べるができること、②悪いニュースでもトップに迅速に伝わること、③裏表のないコミュニケーションがされていて、いわゆる忖度をしな

くてもよいこと等を指す、と理解することができた。そしてどうやら、人はそれぞれに「風通しが悪い」という状況を感じることがあり、その反対概念として「風通しがよい」という言葉が存在するらしい。「胃の調子がよい人間は胃がどこにあるかを考えることはない、幸福と同じだ」と言ったのは誰だったか、風通しがよい組織になれば、この言葉自体が不要になるだろう。

法務の眼 Legal Eyesight

法務の仕事と「言葉の意味」

グンゼ株式会社
執行役員 IP・リーガル部長

吉鹿央子 (Hiroko Yoshika)

3 アウトサイダーから見た言葉の意味

「無事」と「風通しがよい」の共通点は、「反対概念があるからこそ成り立つ」ということと、もう一つ、「内部者には当然のこととして意味が共有されているが、価値観を共有していない外部者にはわかりにくい」ということである。ここからは、後者の点について述べてみたい。

ジョンと私の共通点は、外国人または転職者という、いわばアウトサイダーであったことである。アウトサイダーである二人には、「国」や「会社」のような内輪で、当たり前で共有されている概念が理解できなかったのだが、日々仕事をする中で、このような言葉の例はほかにも多いと感じる。

たとえば、「旗振り役」は「リーダー」とは異なる意味なのか(結果に責任を持つ人のことだ

と思っていたが、鼓舞するだけだ、という人もいる)？「1時間を超える指導はパワハラに当たる可能性がある」と教わったが、「指導」は必ず「叱責」なのか(キャリアプランをじっくり話すのは「指導」ではないのか)？「営業秘密が漏れることのないよう注意してください」というときの「営業秘密」とは、不正競争防止法の三要件を満たしたものか、それとも単に「自分が営業秘密だと信じているもの」なのか(たいていは後者である)？「若手社員」は何歳までか、「幹部社員」とは誰なのか(会社によってずいぶん違う)？

4 法務の出番

ことほど左様に、毎日仕事で使っているが、内輪では当然とされる文化的前提が含まれているがゆえに、実は意味がよくわからない言葉というのは多くある。

法務を担当する人間は、契約書や社内規程を作成する上で、言葉の定義には非常に神経を使うことだろう。それに加えて、このような「仕事をする上での日常語」の意味を具体化および明確化することも、法務担当者の重要な役割ではなかろうか。

日本語の美しさは前提の共有、別の言葉でいうと文脈依存性にあることは承知している。しかし、会社の戦略を社内で浸透させ、同じ方向に進めていくためには、同じ概念は同じ言葉で表すこと、そして、一つの言葉が(アウトサイダーにもわかるように)できるだけ具体的かつ明確な意味を持って使われていること、が必須だと思う。書面上の定義だけでは十分でなく、日常のコミュニケーションにおいても徹底されていなければならない。それをすべきなのは、言葉で人を説得することが仕事の重要な一部であるところの、われわれ法務の人間である、とここでは壮語させていただこう。

「君には旗振り役を任せるよ」と言われて、自分に期待されていることがはっきりわかる部

下はどのくらいいるだろうか。それはどういう役割ですか、と上司に尋ねることができないのなら、その組織は「風通しが悪い」のであろう。

5 難しい会社の私

ところで、このような「言葉の意味」をしつこく確認してきた結果、私は社内の一部では「気難しい人」ということになっているらしい。「気難しい」には、気分によって判断が変わる、というニュアンスがあるような気がして甚だ心外である。どうせなら「難しい人」と言ってほしい。こんなことを言うから気難しいと言われるのだけれど、めげることなくこれからも「その言葉はどういう意味？」と問い続けたいと思っている。